

平成 20 年度化学工学会粒子・流体プロセス部会総会 議事録

日時： 平成 21 年 3 月 19 日（木） 12:00-13:30
場所： 化学工学会 第 74 年会（横浜国立大学）C 会場
出席者： 19 名

審議事項：

●分科会代表、副代表の交代について

次の交代が申請され、承認された。

- ・流動層分科会代表：清水忠明（新潟大学）→鈴木善三（産業技術総合研究所）
- ・熱物質流体工学分科会副代表：本間俊司（埼玉大学）→大川原真一（東京工業大学）

●気泡塔分科会の改組について

気泡塔分科会代表寺坂先生より、同分科会を「気泡・液滴・微粒子分散工学分科会」（略称：気液固分散工学分科会）とする発展的改組の提案とそれに至る経緯について、資料に基づいて説明が行われ、承認された。

●部会規約、分科会運営細則の改正について

事務局より、資料に基づき説明があった。

○部会への入会及び退会については、書面に加え電子メールによる提出も認めるとともに、幹事会で報告のみを行う（承認を得るとはしない）形に部会規約第 5 条を変更する改正案が審議され承認された。ただし全ての会員種別についての報告を幹事会で言うよう、文言を若干修正することとした。

○分科会への入会及び退会については、現在の会員が他の分科会に入る手続きが記載されていないなどの問題点を含めて運営細則の改正はさらに検討するが、効果的な改善については、幹事会の議事に基づいて前倒しで実施していくことが部会長より提案され、了承された。

●平成 20 年度決算報告

事務局より資料に基づき次の通り説明があった。

○部会収支計算書の説明が事務局（中里）より行われ、本部からの部会交付金が前年度に振り込まれ、本決算書では表面上ゼロとなったこと、国際会議共催の支出があったこと、3つの分科会（ミキシング技術分科会、気泡塔分科会、流動層分科会）が投資活動支出として特定資産取得支出（行事積立金）を年明けに計上したことが、例年と異なる点であること説明された。ついで、部会長より、会計監査が厳正に行われたことが確認され、部会収支計算書は原案通り承認された。ただし、会費収入が中間報告分（9月）から若干増えていることから、増額分の第二次分配を次年度にまとめて行う但し書きを入れる事となった。

○部会事務局収支計算書の説明が事務局（中里）より行われた。本部からの平成 20 年度の部会交付金が平成 19 年度内に振り込まれていたため、平成 20 年度分の部会交付金と分科会分配金の内訳については補足資料により説明があった。これら事務局会計の決算書は原案通り承認された。

●平成 21 年度の活動計画

事務局より、昨年 10 月に各分科会から提出されたものを合算し、これに事務局予算を昨年にならう形で編成し、昨年 11 月に本部に提出した資料に基づいて、説明が行われた。本資料では特定資産取得支出がどの分科会もゼロとなっているが、この点については補正が要るので、特定資産取得支出や繰越金差額を加えたものを、補正予算として作成し次回幹事会で議論することを条件として、予算案は承認された。

●今後の予算執行について（繰越金）

繰越金（ならびに行事積立金）の有効活用について、部会長より各分科会へ要請があった。

●映像賞（仮称）について

映像セッションの設置と映像賞（仮称）の試行について、部会長より趣旨説明があった。平成 21 年度の第 41 回秋季大会（広島）の 2 日目の午後の 2 時間を使って試験的に実施することが提案され了承された。また、映像作品について授賞を試験的に行うことが提案され、了承された。内規については幹事会に一任された。

また、映像賞を含むセッションは部会全体にまたがる分科会横断的なものとして大会 3 日目の午前中にも講演時間を申請している。本部会の最も横断的な分科会である熱物質流体工学分科会が事務局と連携して特別講演等も含め、企画を練る方向で進めていくことが提案され、今後検討することとなった。

●部会セミナーについて

部会長より、部会セミナーの開催時期についての提案がなされた。1 月が時期的につらいということ、また 12 月に流動層分科会がシンポジウムを開催するため、11 月開催で企画を進めていくことが報告された。

●部会の継続申請について

本部会は継続するものとして、本部へ継続申請を行うことが提案され了承された。

●受賞記念講演の開催日について

シンポジウム賞（奨励賞）に加え、今後は技術賞、フロンティア賞の選考を早めて年会で全ての受賞者の記念講演が行えるようにすることが部会長より提案され、承認された。今後、選考スケジュールを幹事会にて調整していくこととなった。

●受賞者名発表と授賞式

平成 20 年度のシンポジウム賞、フロンティア賞、技術賞の各賞受賞者について部会長より資料に基づき報告があった。その後、シンポジウム賞（奨励賞）、フロンティア賞、技術賞の授与式が執り行われ、シンポジウム賞（奨励賞）受賞者により記念講演が開催された。

報告事項：

●平成 20 年度の活動報告（部会、分科会）

各分科会代表より、資料に基づき説明があった。